

建学の精神と本学の教育方針

東大阪大学は、学校法人村上学園が経営する大学である。

学校法人村上学園は、昭和15年12月に布施高等女学校（平成14年から敬愛女子高等学校と校名変更）として認可され、以来、順次、附属幼稚園、柏原高等学校、東大阪短期大学を設立してきたが、更なる発展のために平成15年4月1日東大阪大学を開設するところとなった。

開学の祖、村上平一郎先生は、学園創立に際し、「万物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げられた。この建学の精神は時代の変化を超えて普遍性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間を作る教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、学則第1条（目的）・第3条の2（各学科の人材養成目的）に従い、教育科目並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

すべての学生が、本学に学ぶものの使命と責任を自覚し、稔りの多い4年間の学生生活を送るよう、心から期待する。

教育目的

本学は、教育基本法並びに学校教育法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間をつくる教育を目指すとともに、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とする。

教育目標

広い教養と豊かな情操を備え、子どもに関する専門的知識、技能を身に付け、子どもの視点に立って子どもの育ちを総合的に援助できる人材を育成する。

学部・学科の方針

【こども学部こども学科】

- 人類はもとより生きとし生けるものに対し、優しい気持ちで接する心、生きているものを大切にする心を涵養し、次代を担う子どもの健全育成に貢献できる人材を育てる。
社会人として必要な教養と子どもに関する専門的知識および技能を学ばせるとともに、広い視野で考える力、主体的に課題を見つけ解決できる力を身に付けさせ、子どもの立場に立って考え、発言し、社会に貢献できる人材を育てる。
- 自分が健全であることを喜び感謝するとともに、相手の立場に立って考えることを教え、人の痛みがわかる人材を育てる。

【こども学部国際教養こども学科】

- 少子高齢化をはじめ、こどもを取り巻く環境は、アジア諸国、とりわけ東アジアの国と地域では共通点が多い。アジアこども学科では、こども学の理念の実現を目指し、現代社会から求められている「世界の中で生きる国際性」を多様な授業から習得し、社会的自立、職業資格の獲得、国際社会への貢献を目標とする。よって、経済・経営、国際文化、語学力をキーワードに、
- こども学の専門知識をグローバルな視野で追究すると同時に、世界に通用するビジネス専門知識を学び、社会及び市場変化を的確に把握し、且つ課題解決に施策を提案できる複合的人材を育成する。
 - アジア連携をモットーに、国境を越える多面的な交流により、アジア社会の多様な価値観を学びながら、アジアのこども、アジアの中の日本に関する諸問題と諸知識を探究・習得し、アジアの社会、文化、歴史、経済、環境などに強い関心を持ち、且つ異文化が理解できる世界観を有する人材を育成する。
 - 幅広い教養知識の習得と徹底した語学指導により、企業及び国際社会を舞台に高度な実践的語学力で活躍できる国際性豊かな人材を育成する。